

## 《 学部消息 》

### 教授会メモ

元年9月13日（水）定例教授会

理学部4号館1220号講義室

- 議題 (1) 前回議事録承認  
 (2) 人事異動等報告  
 (3) 奨学寄附金の受入れについて  
 (4) 人事委員会報告  
 (5) 会計委員会報告  
 (6) 企画委員会報告  
 (7) 理学院計画委員会報告  
 (8) 評議員の選出について  
 (9) その他

- (4) 平成元年度公立大学研修員の受入れについて  
 (5) 教務委員会報告  
 (6) 教養学部連絡委員会報告  
 (7) 人事委員会報告  
 (8) 企画委員会報告  
 (9) 理学院計画委員会報告  
 (10) その他

元年10月18日（水）定例教授会

理学部4号館1320号室

- 議題 (1) 前回議事録承認  
 (2) 人事異動等報告  
 (3) 奨学寄附金の受入れについて

元年11月15日（水）定例教授会

理学部4号館1320号室

- (1) 前回議事録承認  
 (2) 人事異動等報告  
 (3) 奨学寄附金の受入れについて  
 (4) 人事委員会報告  
 (5) 企画委員会報告  
 (6) 理学院計画委員会報告  
 (7) その他

### 人事異動報告

(講師以上)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
情報科学	教授	米澤明憲	元. 10. 16	配置換	東工大教授から
生物化学	講師	田之倉優	〃	採用	

(助手)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
物理	助手	大栗博司	元. 8. 31	辞職	
化学	〃	赤木右	〃	休職	平. 3. 9. 1まで
鉱物	〃	工藤康弘	元. 9. 1	休職更新	平. 2. 8. 30まで
物理	〃	田中成典	元. 9. 30	辞職	
植物園	〃	加邊章夫	元. 10. 1	昇任	教務職員から
数学	〃	齋藤秀司	〃	〃	教養学部助教授へ
情報科学	〃	高井昌彰	〃	〃	北海道大学講師へ
〃	〃	小野芳彦	〃	〃	国際日本文化研究センター助教授へ

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
情報科学	助 手	松 岡 優	元. 10. 16	採 用	
物 理	"	加 藤 晃 史	"	"	
化 学	"	酒 井 陽 一	元. 10. 24	休職更新	平. 2. 10. 23 まで
天 文 研	"	中 井 直 正	元. 11. 1	転 任	国立天文台助手へ
情報科学	"	加 藤 和 彦	"	採 用	
人 類	"	足 立 和 隆	"	"	
物 理	"	石 川 隆	元. 11. 4	復 職	

(職 員)

物 理	事務官	梶 浦 珠 代	元. 9. 30	辞 職	
"	技 官	宇 田 毅	"	"	
植 物	"	才 木 桂 太 郎	元. 10. 1	採 用	
事務部	事務官	上 原 功	"	勤務替	用度掛から司計掛へ
"	"	河 野 広 幸	"	"	司計掛から用度掛へ
数 学	"	金 川 厚 美	元. 10. 7	辞 職	

## 外国入客員研究員報告

所 属	受入れ教官	国 籍	氏 名	現 職	研究員期間	備 考
数 学 科	小松 教授	ソビエト連邦	SHLEKIS, Petras	ヴィルニウス大学・数学・微分方程式・数値解析・ドチェント(助教授担当)	元. 9. 19~ 2. 7. 20	
"	加藤助教授	フランス	GROS, Michel	CNRS主任研究員	元. 10. 1~ 2. 2. 28	
物理学科	上村 教授	連合王国	KO, David Yuk Kei 高, David 育基	エクセター大学研究員	2. 1. 15~ 3. 1. 14	元. 1. 18 教授 会承認の期間 延長
地 学 科	島崎 教授	中華人民共和国	GAO, Xiao Wei 高 小 微	吉林省地質科技情報研究所理工師	2. 4. 1~ 3. 3. 31	

## 理学博士の学位取得者

[平成元年9月27日付(10名)]

地球物理学	楊 城 基	房総半島東岸沿いに南下する親潮中層水
物 理 学	川 村 静 児	レーザー干渉計重力波アンテナのための10mプロトタイプ
植 物 学	河 原 孝 行	アジア産ヒヨドリバナ属植物の系統分類学的研究
植 物 学	周 天 甦	大本植物におけるシュートの発生と形成に関する比較形態学的研究
論文博士	鳥 谷 浩 志	自由曲面形状を持った立体を対話的に処理するソリッドモデラの研究
論文博士	今 村 保 忠	筋小胞体 Ca <sup>2+</sup> 輸送ATPase におけるエネルギー共役機構の研究
論文博士	小 沢 章 一	液体封止チョクラルスキー育成によるGaAs 結晶における成長導入欠陥形成

論文博士 大山 雄一 神岡核子崩壊実験における上向きミューオンの研究  
 論文博士 斎藤 毅 数論曲面の導手判別式と Noether 公式  
 論文博士 森 裕平 トランスポリアセチレン・ソリトン付近の振動モードの研究

〔平成元年9月30日付（2名）〕

天文学 鄭 玄 沫 星生成領域の分子ディスクにおけるシアノアセチレン分子輝線の研究  
 生物化学 喪 永 錫 哺乳動物細胞における非相同期組換えの機構に関する研究

〔平成元年10月23日付（5名）〕

論文博士 成 序 三 “XeCl/H<sub>2</sub>” システムのラマン利得及びラマン波面  
 論文博士 大栗 博司 超共形対称性とリッチ平坦なケーラー多様体の幾何学  
 論文博士 坂入 実 溶液中に存在する化合物の大気圧下におけるイオン化法についての研究  
 論文博士 今枝 健一 低次元有機電導体及びその関連化合物の電子的性質  
 論文博士 柴田 康行 海洋生物中のヒ素の化学形態

海外渡航者

(6月以上)

所属	官職	氏名	渡航先	期間	目的
素粒子	助手	川本辰男	スイス	89. 11. 1 ~ 91. 3. 31	「OPAL検出器による新粒子探索実験」及びデータ解析のため
地質	〃	金川久一	アメリカ合衆国 連合王国	89. 10. 23 ~ 90. 10. 21	「スレート劈開の形成機構の解明」の研究及び試料採取のため

退官教官の最終講義

明年3月31日をもって停年により退官される先生方の最終講義が、下記により行われますので、お知らせいたします。

服部 晶夫教授（数学教室）

平成元年11月25日（土） 15.30 ~ 16.30

5号館 109号室

「多様体上の群の作用と正值性」

※服部教授の最終講義は、すでに行われました。

和田 昭允教授（物理学教室）

平成2年2月2日（金） 16.30 ~

4号館 1220号室

「分子から生物へ - 生物物理の発展史 -」

田澤 仁教授（植物学教室）

平成2年2月14日（水） 15.00 ~ 17.00

2号館大講堂（361号室）

「生理学の面白さ……水とカルシウムを中心として」

阪口 豊教授（地理学教室）

平成2年2月19日（月） 11.15 ~ 12.30

2号館地理学講義室（213号室）

「東京大学の土台 - 本郷キャンパスの地形と地質」

米田 信夫教授（情報科学教室）

平成2年3月23日（金） 15.30 ~ 17.30

4号館 1220号室

「圏論と情報科学」

## 名誉教授との懇談会

去る10月7日（土）12時から、赤門脇の学士会分館において、理学部恒例行事になっている名誉教授との懇談会が有馬総長ご臨席のもとに開催された。懇談会には、27名の名誉教授の先生がご出席になり、学部からは、和田学部長、久城、田澤評議員等の関係者が出席した。懇談会は野島事務長の開会に始まり、和田学部長から挨拶と近況報告があり、ついで記念撮影を行い、最長老の彌永昌吉先生のご発声による乾杯で懇談に入った。

懇談は、各先生方のご活躍の様子や、ユーモラスな思い出話、近況報告などがあり、有馬総長の挨拶を挟んで終始なごやかな雰囲気にも包まれた。

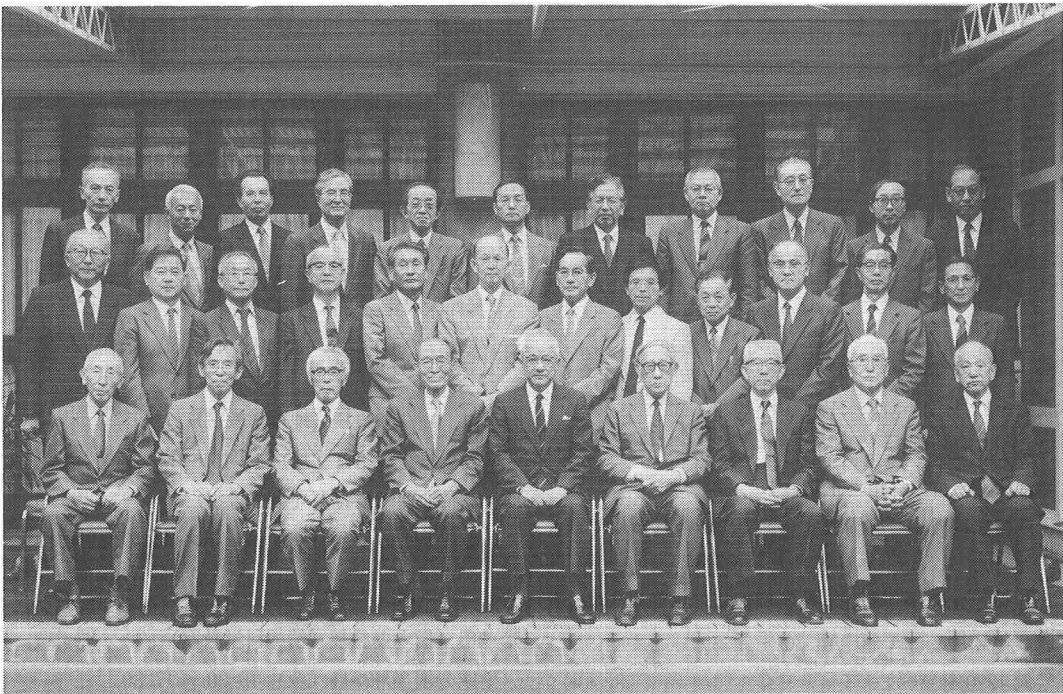
また、生物学科尾本恵市教授による「中国少数民族の調査」と題する講演がスライドを使って行われ、名誉教授の先生から活発な質疑応答等があった、興味と関心が寄せられた。

平成元年十月七日  
学士会分館にて  
和田昭允

藤田 宏  
西川 哲治  
霜田 光一  
高橋 武美  
杉津 耕三  
藤原 鎮男  
飯山 敬道  
若生 英一  
藤井 忠男  
尾本 恵市  
宮澤 辰雄  
木村 敬雄  
飯田 修一  
高倉 達雄  
不破 敬一郎  
菅木 裕博  
木下 清一郎  
木原 太郎  
森野 英三

久城 有夫  
田澤 仁  
有馬 朝人  
古谷 雅樹  
佐伯 敏  
久保 亮  
鈴木 尚  
橋本 英典

東京大学理学部名誉教授懇談会



## 理学部長と理職との交渉

9月19日、10月16日に、理学部長と理学部職員組合（理職）との定例の交渉が行われた。その主な内容は以下のとおりである。

### 1. 技術系職員の組織化問題について

9月の交渉で、理職からまず、夏休み期間を含めたその後の進展について質問があった。学部長は、組織化については進展はまったくない。組織化とは別に現在研修に関して検討中であり、大学全体として概算要求として出るだろうと答えた。理職から職員の旅費の取り扱いが教室ごとに異なっていると指摘があり、田沢評議員から職員の旅費については教官の研究旅費からの流用ということで各教室の実情に応じてその取り扱いが異なっている。技官に旅費を捻出することは教官の研究旅費の支出についても考えざるを得ないことになると述べられた。学部長はさらに、国立大学の施設整備費はこの5年間で大幅に減少しており、組織化のような新しいことをしなくては、減少した技官のポストが再び大学に戻される可能性はない、との意見を表明した。それに対して理職から、組織化されているから仕事がきちんとなされ、組織化されていないから仕事がなされない、という考え方はおかしいと批判があった。学部長は、そのような考え方は官僚には通用しないであろうと述べた。また、技官の減少に伴い助手の用務が増加していくことになるのではないかと理職から指摘があり、学部長は、教授会で検討が必要だが、必ずしも助手にしわよせがゆくとは思わない、と述べた。

10月の交渉では、理職からその後の進展及び2月の教授会において決定された理学部案の取り下げの可能性について質問があった。学部長は、組織化問題の検討を再開するため、懇談会を設置することが総長より提案されている。理学部案については教授会で決定されたことなので取り下げの意志はないが、前向きの内容の修正には応じるつもりである、と答えた。田沢評議員から技官問題小委員会では当面組織化について検討する予定はなく、研修問題について検討をすすめていきたい。このため研修に関する技官の意見をきく必要があるのでアンケートを行う予定であり、アンケートの作成に関しては理職の意見を聞きたい旨発言があった。

### 2. 理学院計画について

9月の交渉において進展状況について理職から質問があった。学部長は委員会でPDF、TA、RFの導入について適切な数を検討中であると答えた。田沢評議員は教室事務に関するアンケートの結果、講座当りの事務職員の数が理学部全体で非常に幅があることが明らかになったと述べた。さらに、研究に重点を置き、若い教官の研究時間を増やすためにはどのような事務組織にするべきかを検討していると述べた。理職から理学院組織における技官の数に関して質問があり、田沢評議員はまだ調査中であると答えた。理職は調査結果の公表を求めた。理職から全学的な進展状況に関する質問があり、学部長は概算要求のたたき台としての理学部案を今年度中に作成する予定である。東大全体がいっせいに学院化するというのではなく、一番進んでいる理学部が案を出そうとしていると答えた。理職から専攻連合に関する進展状況について質問があり、久城評議員は、既存の専攻の他にそれらを有機的にまとめる専攻の一つ作る方針である。10月半ばまでに案をまとめ、ある程度まとまったら、各教室におろすつもりであると答えた。

10月の交渉で理職から進展状況について質問があった。学部長は概算要求のたたき台を理学部が作るようになっており、研究科委員会の中に理学院懇談会を作って関係部局との合意を得る作業が進行中であると答えた。また、概算要求の中では30名から40名の職員増を要求するつもりであり、これによって理学院構想がより活性化されるものと考えている。飛び級との関係については現在検討中である、と述べた。また、理職から研究者としての身分保証のない助手制度を放置したままTA、RFを導入することは助手制度のもつひずみを拡大することになるのではないかと発言があり、学部長はそうは思わないと述べた。

### 3. 昇格改善要求について

理職から、まず行(二)技能職員の4級昇格の見直しについて説明を求めた。事務長は別定昇格なのでまだ本部より連絡がない、別定の申請は学内に他にも多くあり今のところ時期がいつになるかわからない。発令になるにしても4月1日付けになるかどうかはわからないと述べた。ついで理職から、現在、その技能職員がまとめておこなっている理学部内の危険物処理が

技能職員の退職後どうなるか、との質問があつて、事務長は外注の方向にならざるを得ないであろうと答えた。それに対し、理職から3号館での例を挙げ、水もれ、漏電など管理が悪くなる可能性があるとの指摘があつた。また、理職から、技官の6級昇格に関して何らかの情報がないか、との質問があり、事務長は今のところ何の情報もない、と答えた。植物園教務職員の助手昇格に関しては、10月1日付で発令となることが明らかにされた。その努力に対し理職から謝辞が述べられた。事務職員の昇格に関し理職から、他学部では40才後半で事務主任となっていること、他省庁では専門職の導入でポストの不足を補っている、等を資料を示して指摘があり、改善方要求があつた。さらに理職から事務系職員の研修を定期的におこなつてほしいと要求が出されたが、事務長は必要は認識しているが時間的に困難であつた、と答えた。

#### 4. 秘書系職員への専門職導入に関して

9月の交渉において、理職から秘書系職員は現在のシステムでは3級までしかゆけないので専門職の導入をはかつてほしいと要求があつた。学部長は、秘書を

専門職にすると専門職がそのレベルとされてしまう、どのような特殊技能をもっているのかはっきりしないと専門職導入ははかれない、と答えた。10月の交渉において理職から、秘書が学部長発言に打撃を受けていることについて指摘があり、秘書を含む事務系職員の昇格が著しく悪いので職務内容の整理などにより、掛を作る、それがむずかしいなら専門職を導入することが可能なのではないか、との提案があつた。学部長は、秘書を一括して専門職にする、ということでないのなら反対するものではないと答えた。さらに理職からポストの増加のためには教室からの要求が大切なのか、との質問があり、事務長は種々の基準が満たされないと困難である。また、昇格のためには人事異動は重要な要素の一つであると述べた。

#### 5. その他

9月の交渉で、理職から1号館中央化構想について質問があつた。学部長は、施設整備費が大幅に減少しているので一度にその案が通る可能性はないと思うが、概算要求は出している、と答えた。

## 各号館（運営委員）長名簿（交替）

（平成元 12. 1）

号館名	所属	職名	氏名	内線番号	任期
2	地理	教授	鈴木秀夫	4572	元. 12. 1～2. 3. 31

（2号館：4ヶ月交替 動物→地理→植物→人類→動物）

## 編集後記

今年度第3号の広報をおとどけします。この号には折戸先生をはじめとして7編のエッセイが掲載されております。理学部広報の編集を担当するようになってからの大きな喜びは、依頼した原稿が手元に届きその原稿に最初は目を通すときです。いつも感じることは「我々の理学部にはこんな面白い研究を進めておられる先生がおられるのだな。」ということです。私自身の専門、宇宙物理学に関連する話題については、すでにおおよそを知っている場合も多く、そんなに感激することもないのですが自分の不案内な分野、例えば生物関係の原稿を手にしたときはわくわくしながら一気に読んでしまいます。前号塩川先生の「ツメガエルとの引越し」の原稿をいただいたときはまさにそのような状況でした。

しかしこんなに面白い研究を東大理学部で進めているにもかかわらず、世間にはもう一つ知れてないようです。理学部広報の「研究ニュース」は最新の研究成果を数多く、且つ広く知っていただくために作られた欄ですが、長さの点でご不満も多いことと存じます。その点本文のエッセイでは、研究の面白さを読者にかなり伝えることができているのではないかと考えております。この広報をお送りしております新聞社の記者の皆様、出版社の編集者の皆様、本文の方にもどうぞご注意を向けていただきますように。(佐藤)